

ノーベル賞授賞式報告

ノーベル賞授賞式の印象

生出 勝宣

Katsunobu OIDE

今回、小林誠先生のお招きに預かり、ノーベル賞授賞式の末席に列することができました。授賞式は12月10日ですが、前週から Nobel Week としていくつかのイベントが催され、記者会見・Nobel Lecture・日本大使館主催レセプションなどで、小林・益川両先生のお言葉を拝聴することができました。南部先生がご欠席ということもあり、授賞式などでは、小林先生が全受賞者のトップ・バッターを務めておられましたが、先生のご様子やスピーチは日頃と変わらぬ、落ち着きある堂々としたものを感じられました。ちなみに授賞式そのものはきわめて厳粛かつ気品に満ちたものでした。委員の方からスウェーデン語での業績紹介のあと、受賞者の国の言葉でそれぞれ祝辞が述べられたのが印象的です。

記者会見では時節柄、経済学賞受賞の P. Krugman 氏（写真左端）にかなりの質問が集中してしまい、小林・益川両先生の発言機会が相対的に少なかったのは多少残念でした。Nobel Lecture では小林先生が坂田スクールの学問的伝統が小林・益川理論の背景にあったことを詳しく説明されました。また、二つの B ファクトリー実験が理論の検証の決め手になったこと、理論の提唱から検証まで約 30 年を要した事などを感慨深く述べられました。益川先生はご自分の生い立ち、「宿題を全然やらない少年」がどうして物理学に興味を持ったかを紹介されました。会場の約半数、推定 250 人くらいは大学生でしたので、若い人たちを勇気づける講演であったと思います。

晩餐会では音楽（この時はモーツァルトのコシ・ファン・トゥッテから）に合わせて士官学校の学生がバレエのような踊りを披露する、というアトラクションがあり、一見奇妙でしたが、どうもスウェーデンではそのような音楽に合わせた踊り、というのが広く行われているようです。前日に Nordica 博物館に行った時も、幼稚園から大学生くらいまでのそのような舞踊の発表会が行われていました。

小林・益川両先生のノーベル物理学賞受賞を改めてお祝い申し上げます。



受賞者記者会見（12月8日）